

# 28PA-pm429

アマチュアスポーツ選手におけるスポーツファーマシストの認知度とドーピングへの意識調査

○進導 佳大<sup>1</sup>, 熊澤 美裕紀<sup>1</sup>, 錦織 功延<sup>2</sup> (1明治薬大, 2明治薬大附属薬局)

【目的】今後東京での五輪開催も控え、ドーピングに関する正しい知識を持ち、競技者に対し正しい薬の使い方の指導ができるスポーツファーマシスト(以下 SP)は必要とされるであろう。しかし、現在 SP がどの程度認知されているかは不明である。本調査ではアマチュアスポーツ選手を対象に SP の認知度や必要性、ドーピングに関する興味・関心・理解度を調べることを目的とする。さらに、スポーツ選手がドーピングに期待する効果を調べることは、ドーピングの防止にも繋がると考えられる。【方法】関東フлагフットボールリーグの選手を対象とし、web 上でアンケート調査を実施。アンケートでは SP の認知度や必要性、ドーピングへの関心、意識度、常用している医薬品やサプリメントを調査した。また、もしドーピングを行うならどのような効果を期待するのかも回答してもらった。【結果】SP の認知度は低く、必要性を感じている選手も少なかった。ドーピングについては周知されているものの、ドーピングを意識している選手は少なかった。また、選手の常用薬には禁止成分を含む医薬品もあった。競技の特性にもよるが、ドーピングを行った際に期待する効果としては、瞬発力や筋肉増強が多く挙げられた。【考察】過去に国際大会でドーピング検査の対象にもなった選手が所属する団体にも関わらず、ドーピングに対する意識は低く、薬剤選択に関しても楽観的であると考えられる。現状、禁止成分を含む薬剤を常用していることなどから、SP が介入する必要があると考えられるが、リーグ全体の SP の認知度や必要性はまだまだ低いので、アウトリーチ活動等を通じて SP がこのような団体にアンチドーピングの啓発活動を行っていかなければいけないと考えた。